



遠大勵志

岩手県緊急事態宣言改定

「文化祭等の学校行事を実施する場合は、原則として、校内限りでの開催とすること」

どうなる文化部発表会？ そのとき黒陵の底力が！

県内では新型コロナウイルス感染拡大のリスクが依然高まっている状況にあり、県からより一層の警戒の必要を呼びかける通知が入ったのが、8月26日（木）でした。



県内の多くの高校が、この週末あるいは次の週末に文化部発表会を開催する予定で準備をしてきましたが、保護者の方々や中学生の皆さんの来校を予定していた高校は急遽公開を中止とし、通知のとおり校内だけで発表会を行うことになりました。



去年は完全非公開でしたが、今年は中学生が見に来してくれる。その中学生たちが

「黒陵ってスゴイ！」とびっくりするようなパフォーマンス

スを見せてあげようと、各部・同好会・生徒会の諸君は一生懸命準備してきたと思います。

それが、直前で非公開になってしまった。



この時点で皆さんのテンションはダダ下がりになり、「やるイマイんじゃないかね？」と後ろ向き思考になってしまうのでは？と懸念した私が愚かでしたね。

そんな生徒は黒陵にただの一人もいなかったというのが結論です。

「オレら身内で思い切り盛り上がりますよ！」

「午後はTeamsで見られている

保護者のために最高のステージにしますよ！」

前日のリハーサルで、「ああ、明日はこの一体が中学生でいっぱいになるはずだったのになあ！」と



ひとりごちた私に対して、何人かの生徒さんが言ってくれた言葉です。



それを聞いてとっさに思い出したのが、その日の岩手日報一面のコラム「風土計」で取り上げていた、パラリンピックの父・ルードヴィッヒ・グッドマン博士の言葉でした。それが、開会式でも述べた「失ったものを数えるな。今残されたものを最大限に活かせ」です。



その生徒さんたちは私に、「中学生やPTA役員の方々が来られなくなったことを嘆いてないで、今できることを精一杯やって、仲間やTeamsで見ている保護者の皆さんをめいっぱい楽しませましょうよ！」と言ってくれたのです。

これは、グッドマン博士の言葉とぴったり重なりますね。偶然の一致？それとも天の配剤？



午前の在校生向けの発表は、演じる生徒と鑑賞する生徒が一体となって、どのパフォーマンスも大変な盛り上がりようでした。

「もっとやりたい！もっと見てほしい！」という思いが限られた時間の中では十分になんげられず、悔しい思いをした生徒さんもおられたと思います。緊張し

てミスをしてしまっ、て、「本当はもっと上手くできたのに！」と悔やんだり、仲間に申し訳なく思っている人もいるかも知れない。

そんなあなたに、グッドマン博士なら何と云ってくれるでしょう？

「様々な制限や失敗があつて本来の力の60%しか出せなかったとしても、その60%がそのときのあなたの100%だったのだ」



「多くを失っても、残ったものがゼロでない限り人は立っていける」

「100求めたのに60しか返してくれなかったと誰かを非難するより、精一杯の60をありがとうと感謝する方が良い」

お昼休みもそこそこに、午後の部が始まりました。初の試み、おそらく県内では本校だけがチャレンジした、Teamsによる保護者への動画配信の始まりです。

途中様々なアクシデントがありましたが、誰かが誰かを責めることなく、みんながカバーし、みんながフォローし合って、午前中にも優る発表を保護者にお届けすることができましたと思います。(ちなみに、最大瞬間視聴数は『121』でした)。

午前中に三回の発表をした生徒さんの疲労は相当のものだったろうと思いますが、みんな最高の発表をしてくれました。

Teamsを担当された佐々木倫郎先生(ディレクター)と新國 碧先生(カメラマン)の名コンビも、体中を動き回って配信を成功させてくださいました。

生徒・教職員が一つになったときの「黒陵の底力」。この「底力」が、これからも多くの場面で発揮されることを期待します(前期末考査とか)。

